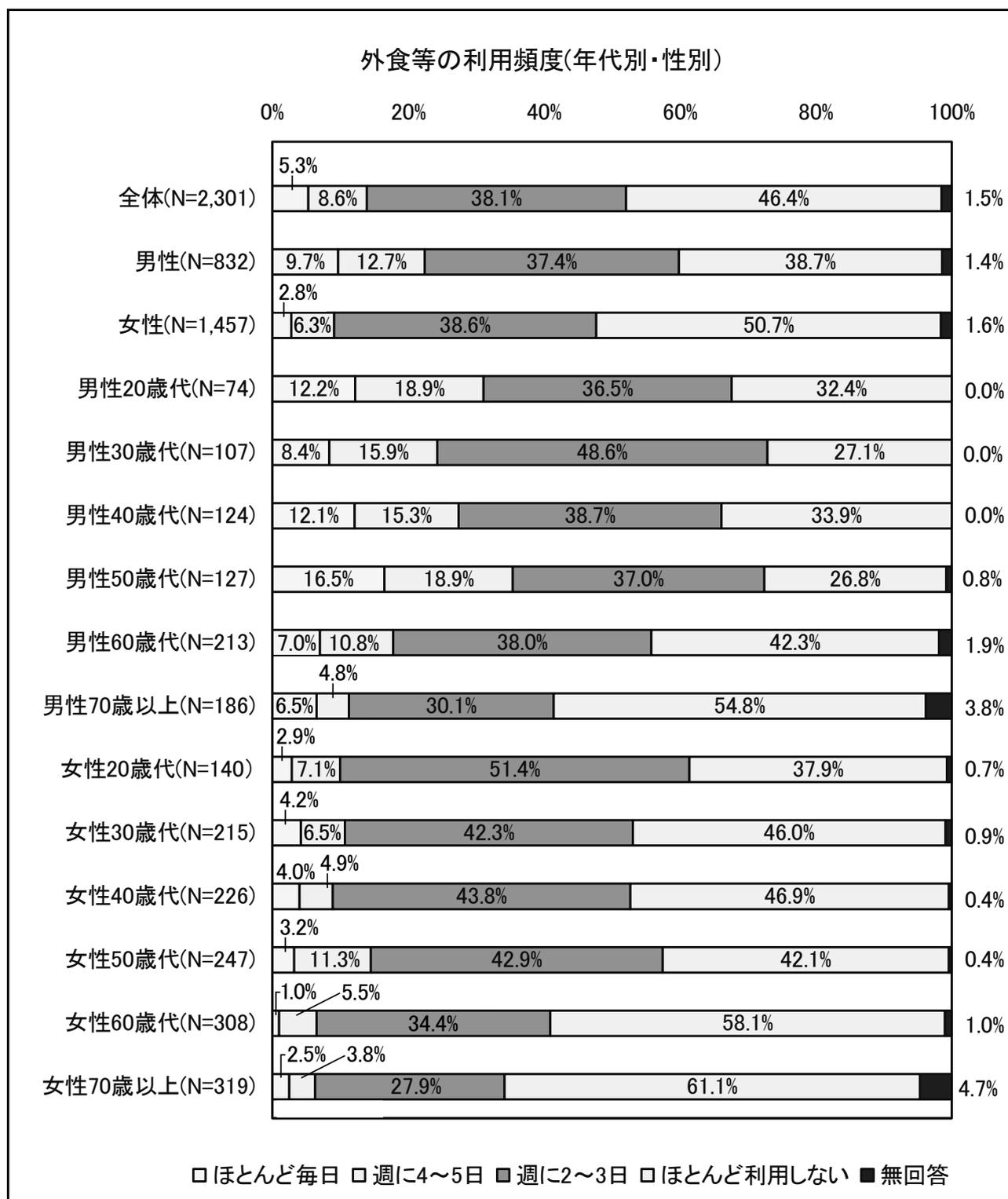


### 働く世代で多い外食等の利用頻度

外食等の利用頻度は、性別では女性より男性が多く、男女ともに20～50歳代の利用頻度は、60歳以上より多くなっています。



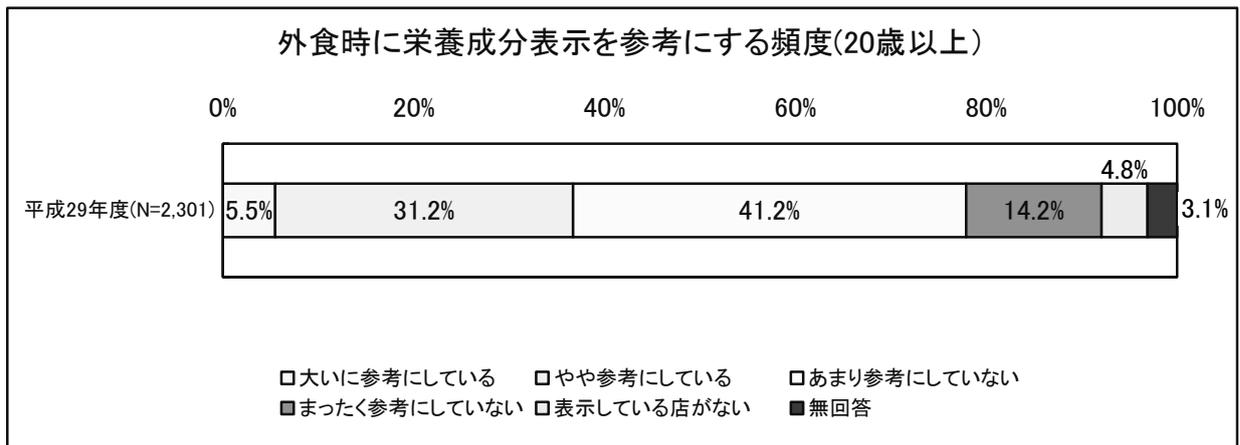
出典：平成29年度北九州市食育に関する実態調査

## (2) 栄養成分表示を参考にする頻度

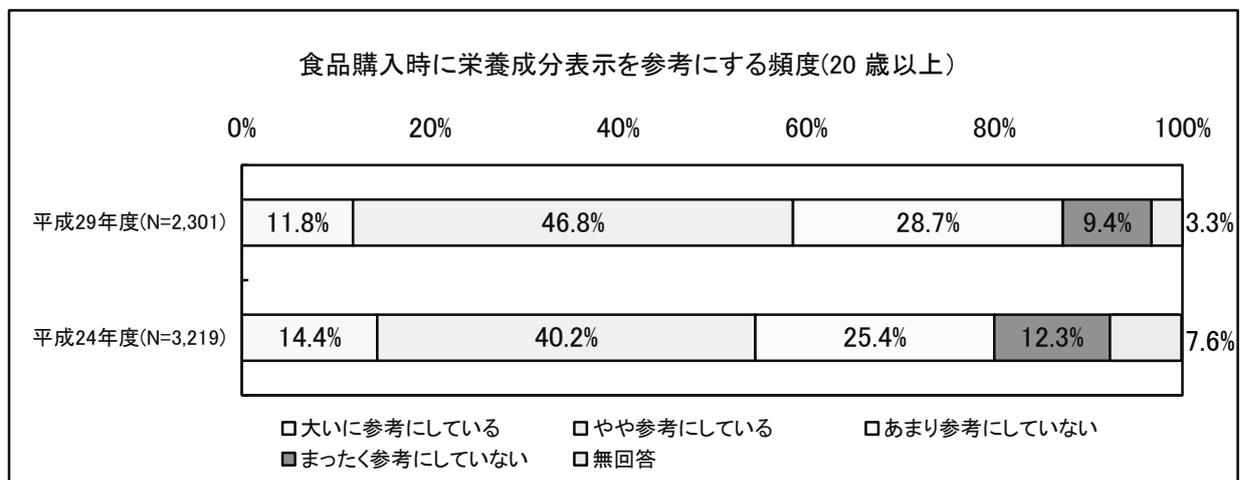
### 外食等での栄養成分表示を利用する人は増えている

外食時の栄養成分表示を参考にする頻度は、「大いに参考にしてている」が 5.5%、「やや参考にしてている」が 31.2%と、これらを合わせた「参考にしてている」は 36.7%でした。

食品購入時の栄養成分表示を参考にする頻度は、「大いに参考にしてている」が 11.8%、「やや参考にしてている」が 46.8%と、これらを合わせた「参考にしてている」は 58.6%となっており、前回調査結果の 54.6%から増加しています。一方で「まったく参考にしていない」は 12.3%から 9.4%と減少しています。



出典：平成 29 年度北九州市食育に関する実態調査



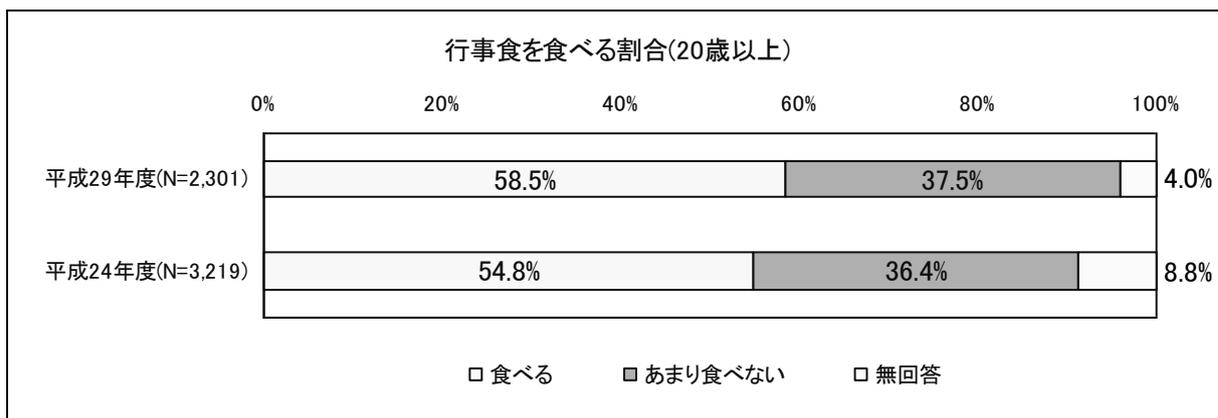
出典：平成 29 年度北九州市食育に関する実態調査、平成 24 年度北九州市食育に関する実態調査

## 6 食文化について

### (1) 行事食を食べる習慣

#### 行事食を食べる人はやや増加

季節や地域の行事のときに「行事食を食べる」は58.5%と、前回調査結果の54.8%よりやや増加しています。

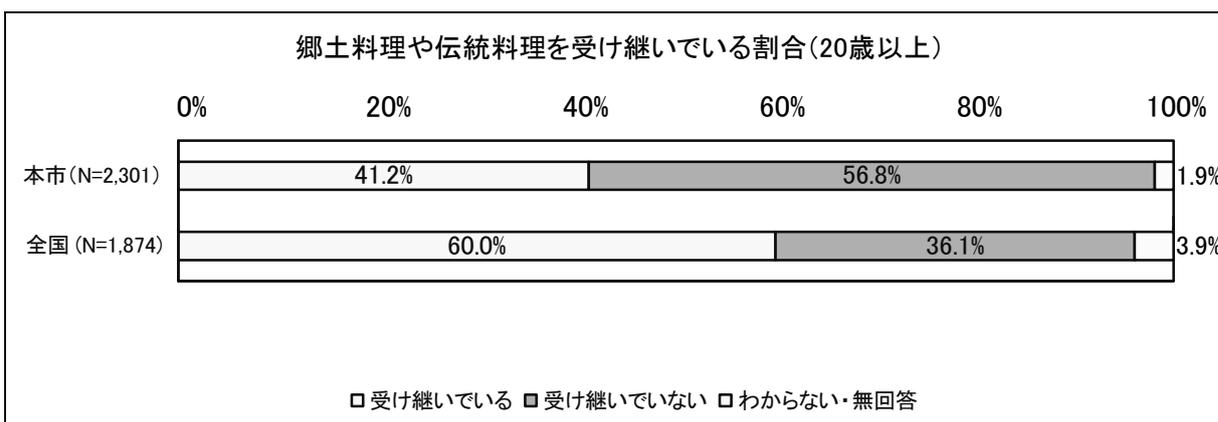


出典：平成29年度北九州市食育に関する実態調査、平成24年度北九州市食育に関する実態調査

### (2) 郷土料理や伝統料理の伝承

#### 郷土料理や伝統料理を受け継いでいる人は全国より少ない

郷土料理や伝統料理を「受け継いでいる」は41.2%と、全国の調査結果60.0%より低くなっています。



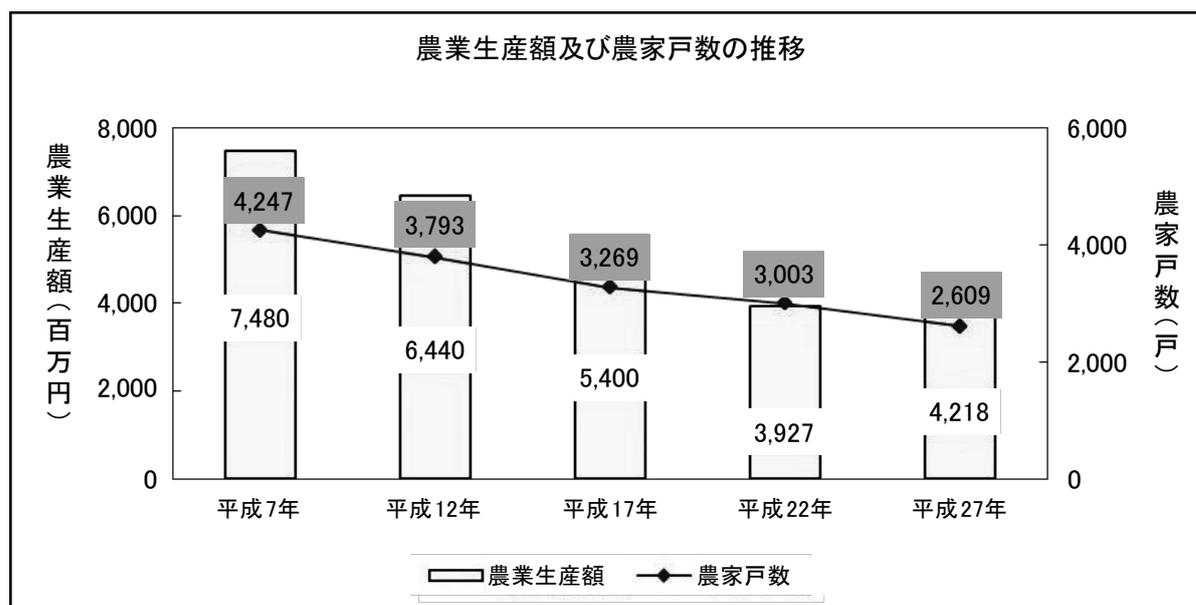
出典：平成29年度北九州市食育に関する実態調査、平成28年度食育に関する意識調査（農林水産省）

## 7 地産地消について

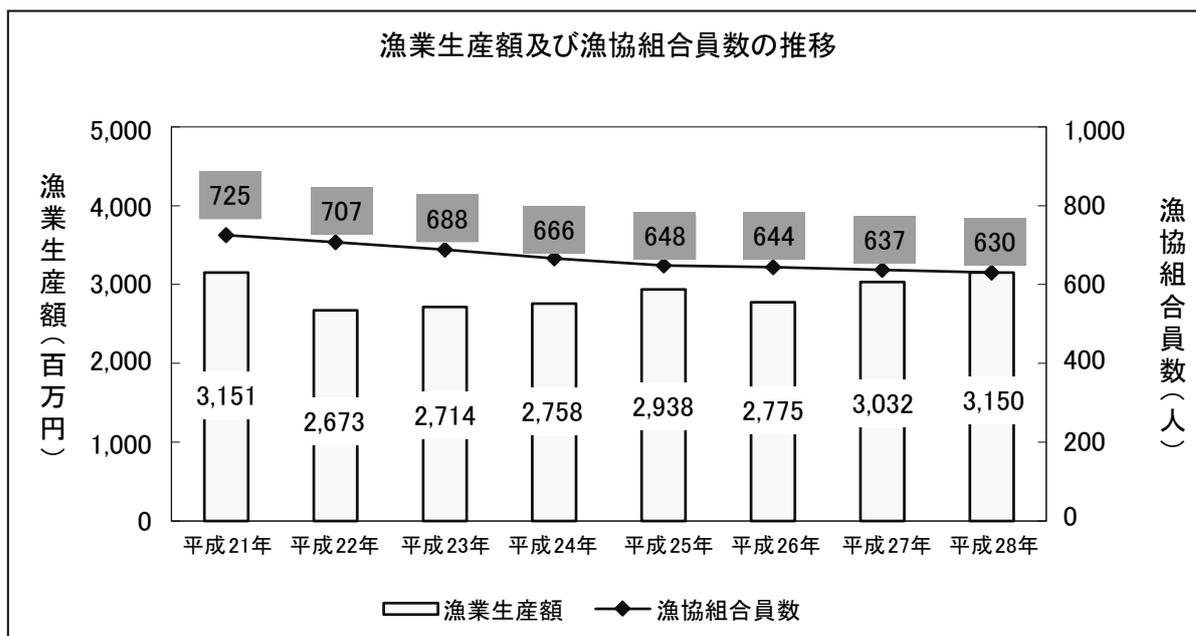
### (1) 農林水産業の現状

高齢化や後継者不足、更には、農林水産物価格の低迷など、農林水産業を取り巻く環境は厳しい状況です。

本市では、農家戸数、漁協組合員数とも減少傾向にありますが、農業、漁業の生産額については、緩やかな増加傾向にあります。



出典：北九州市産業経済局調べ

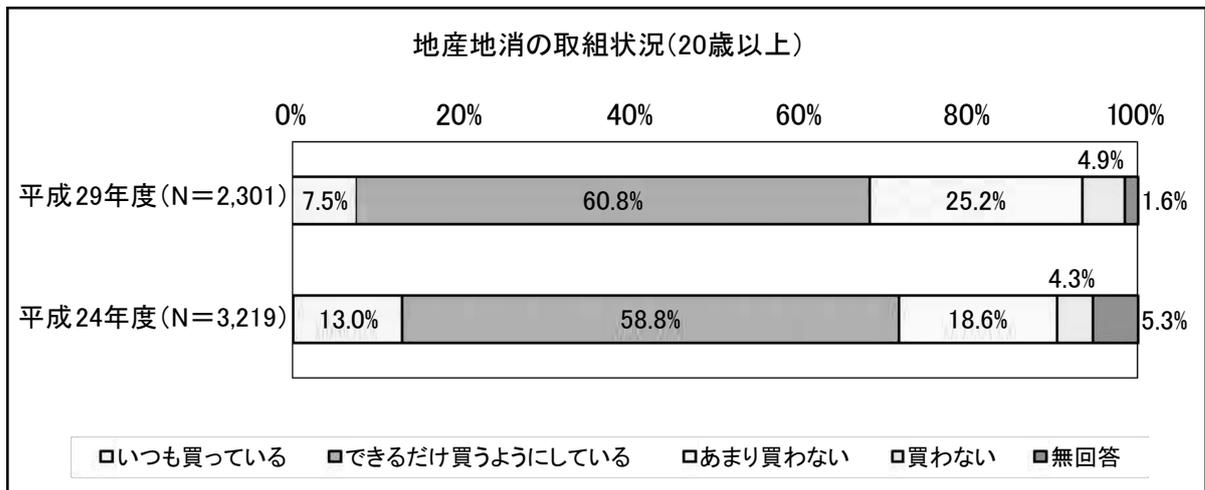


出典：北九州市産業経済局調べ

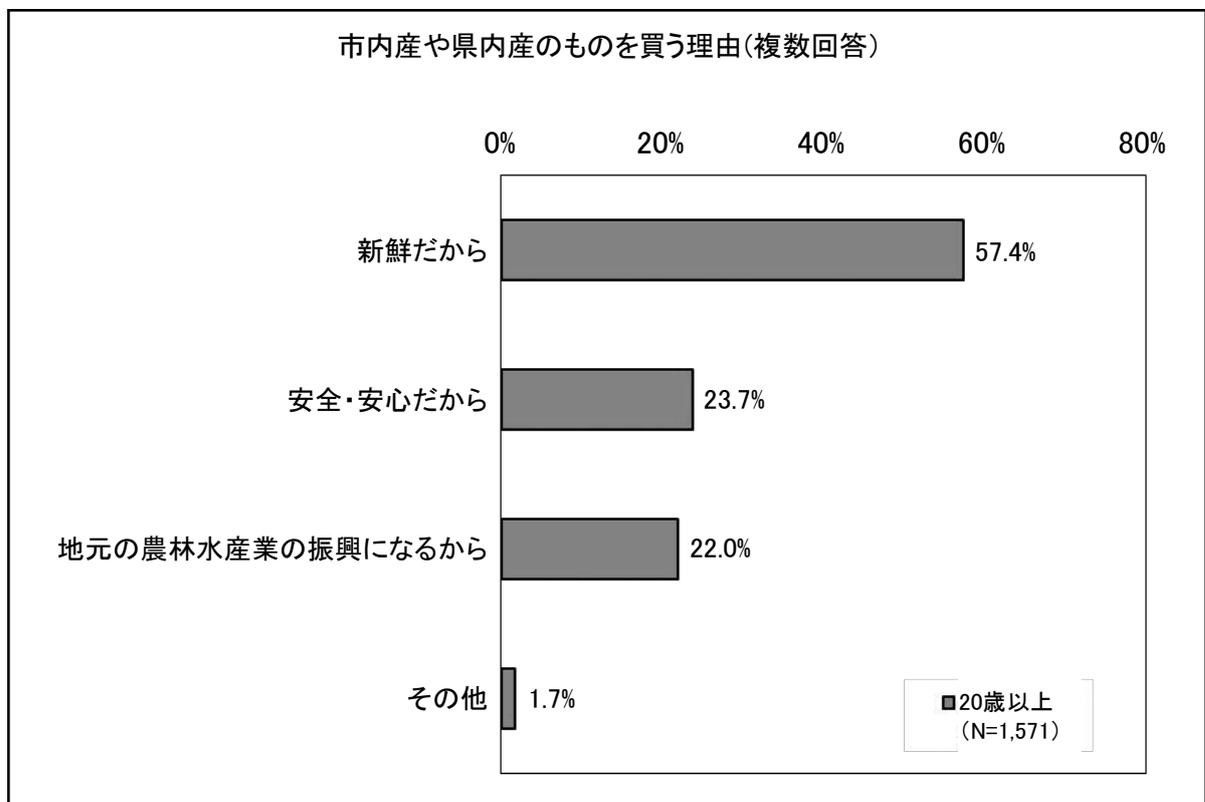
## (2) 地産地消の取り組み状況

「地産地消を意識して食品を購入している」（「市内又は県内産の食品をいつも買っている」＋「できるだけ買うようにしている」）は 68.3%と、前回調査結果の 71.8%より減少しており、前計画の目標値 86%以上に到達していません。

市内産や県内産を買う理由としては、「新鮮」57.4%、次いで「安全・安心」23.7%、「地元の農林水産業の振興になる」22.0%の順になっています。



出典：平成 29 年度北九州市食育に関する実態調査、平成 24 年度北九州市食育に関する実態調査

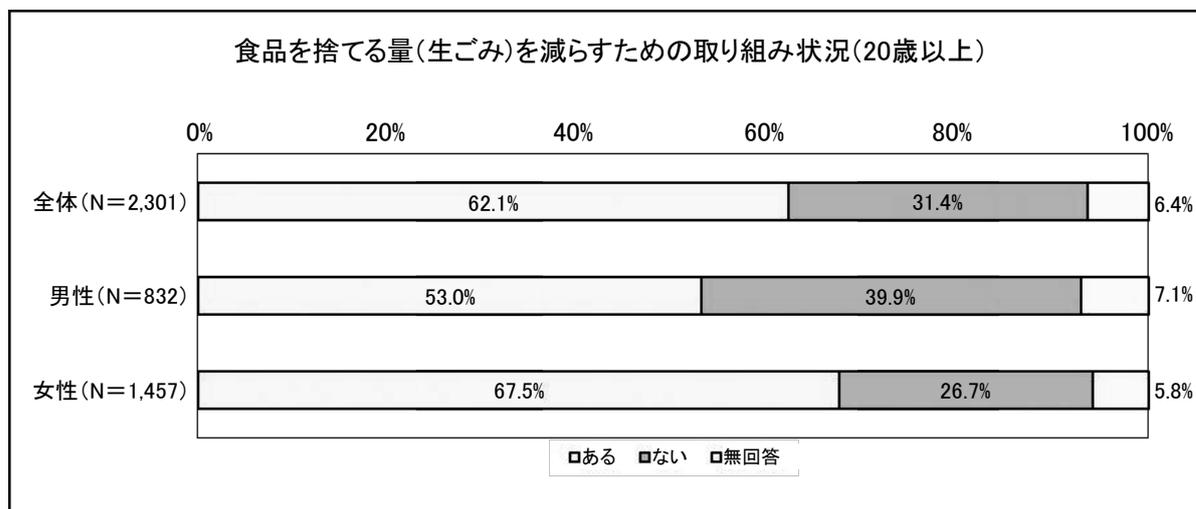


出典：平成 29 年度北九州市食育に関する実態調査

## 8 環境に配慮した食生活

### 半数以上の市民が生ごみ減量化の取り組み

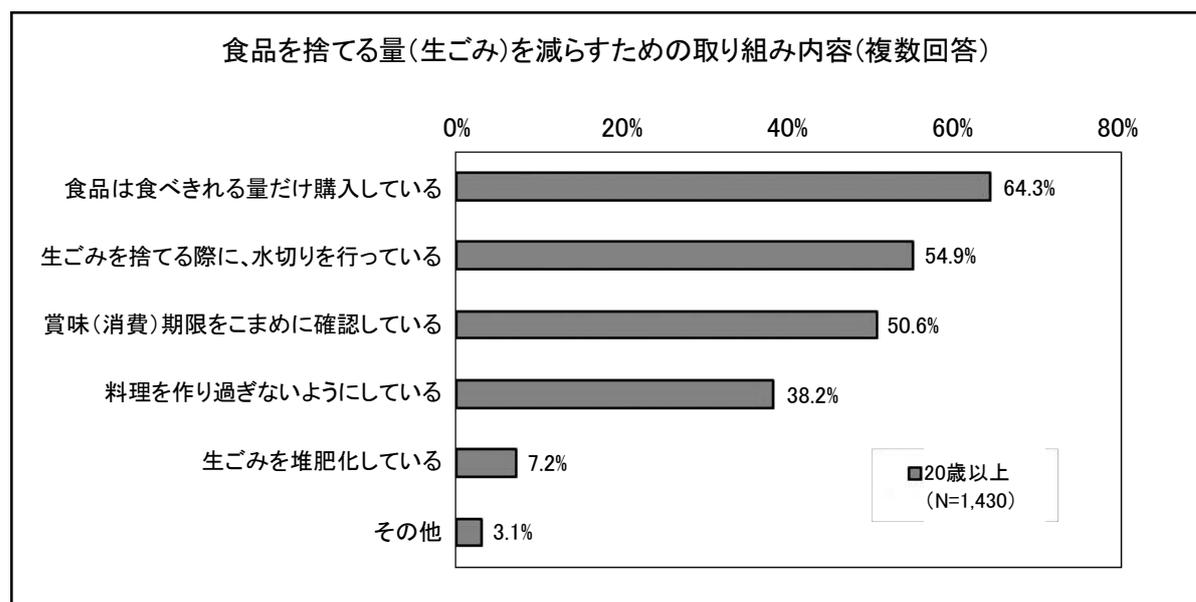
食品を捨てる量（生ごみ）を減らす取り組みでは、62.1%と半数以上が「食品を捨てる量（生ごみ）を減らすために行っていることがある」と回答しています。



出典：平成 29 年度北九州市食育に関する実態調査

### 食品廃棄を減らす取り組みでは、「食べきれるだけ購入」が最も多い

食品廃棄を減らすための取り組みでは、「食品は食べきれる量だけ購入している」が 64.3%で最も多くなっています。続いて「生ごみを捨てる際に、水切りを行っている」が 54.9%となっています。



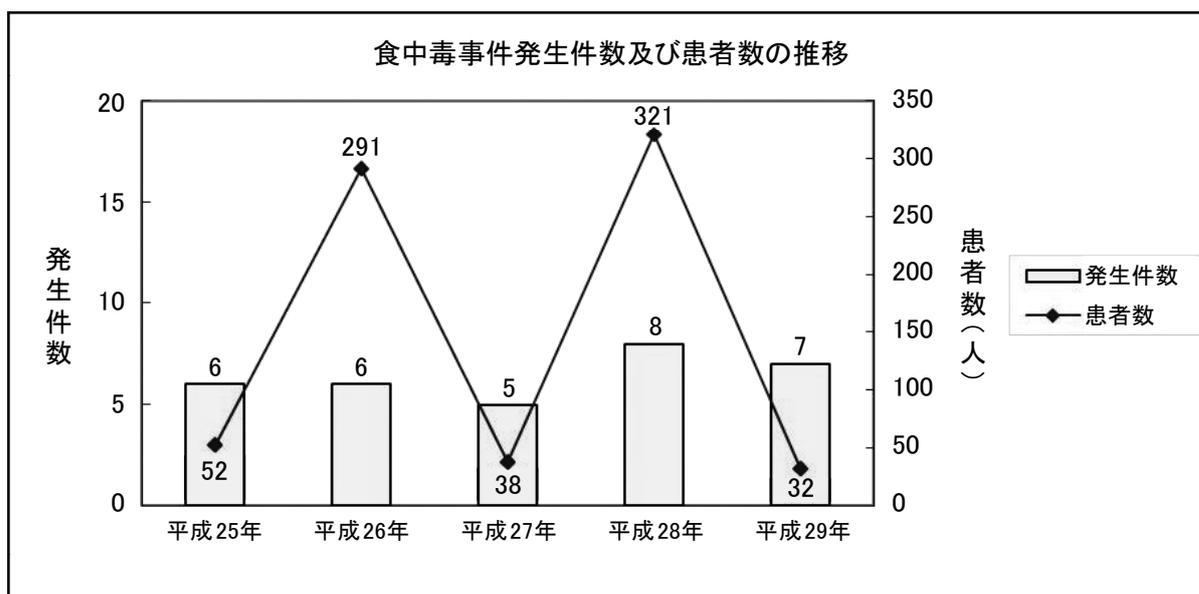
出典：平成 29 年度北九州市食育に関する実態調査

## 9 食の安全・安心

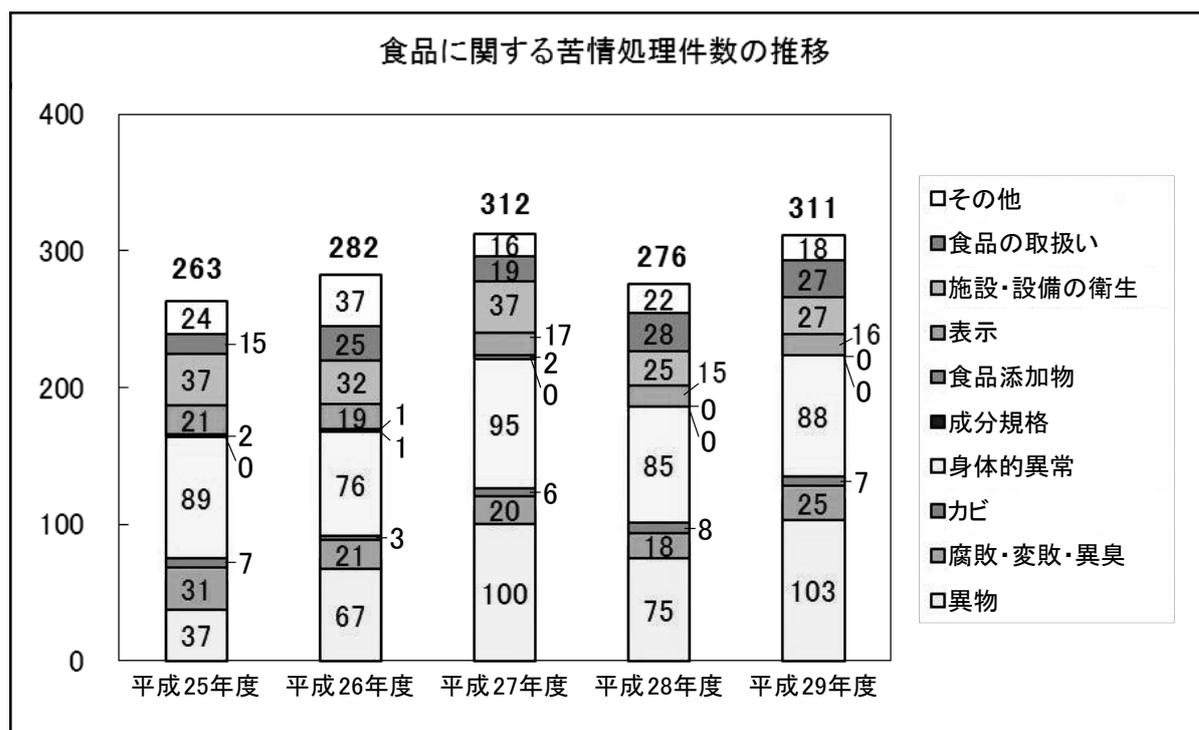
### (1) 市内の食中毒の発生状況と食品に関する苦情

北九州市では、毎年 10 件弱の食中毒が発生しています。特に近年では、ノロウイルス、カンピロバクター、アニサキス等を原因とする食中毒が発生しています。

また、市内の食品に関する苦情処理件数は、年々増加傾向にあります。苦情内容では、「異物」、「身体的異常」が多い傾向にあります。



出典：北九州市保健福祉局調べ

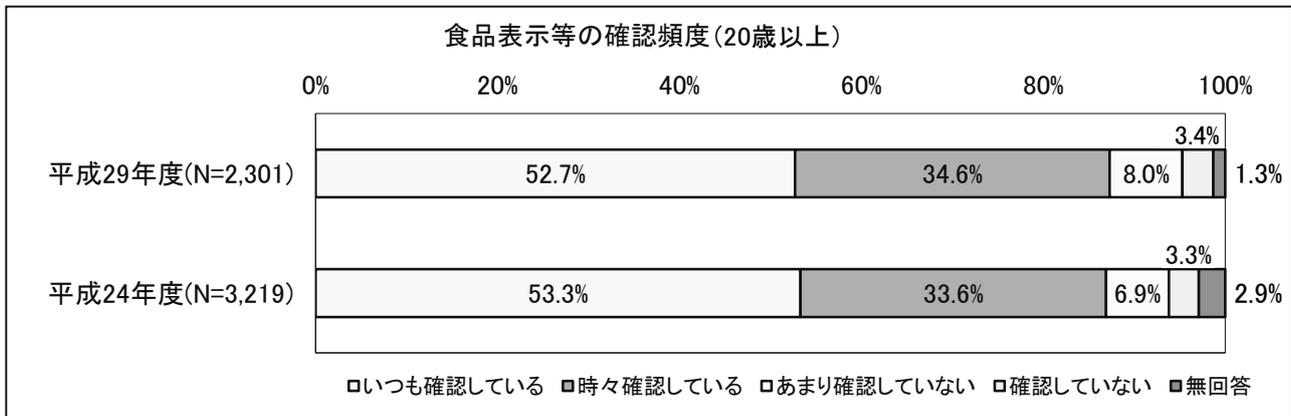


出典：北九州市保健福祉局調べ

## (2) 食品表示等の確認

**食品表示の確認をしている人は約9割**

食品を選ぶ際に、産地や賞味期限、原材料、添加物などの食品表示等の「確認をしている」（「いつもしている」＋「時々している」）は 87.3%で、前回調査結果の 86.9%より増加しており、依然として食品表示への関心が高いことが伺えます。

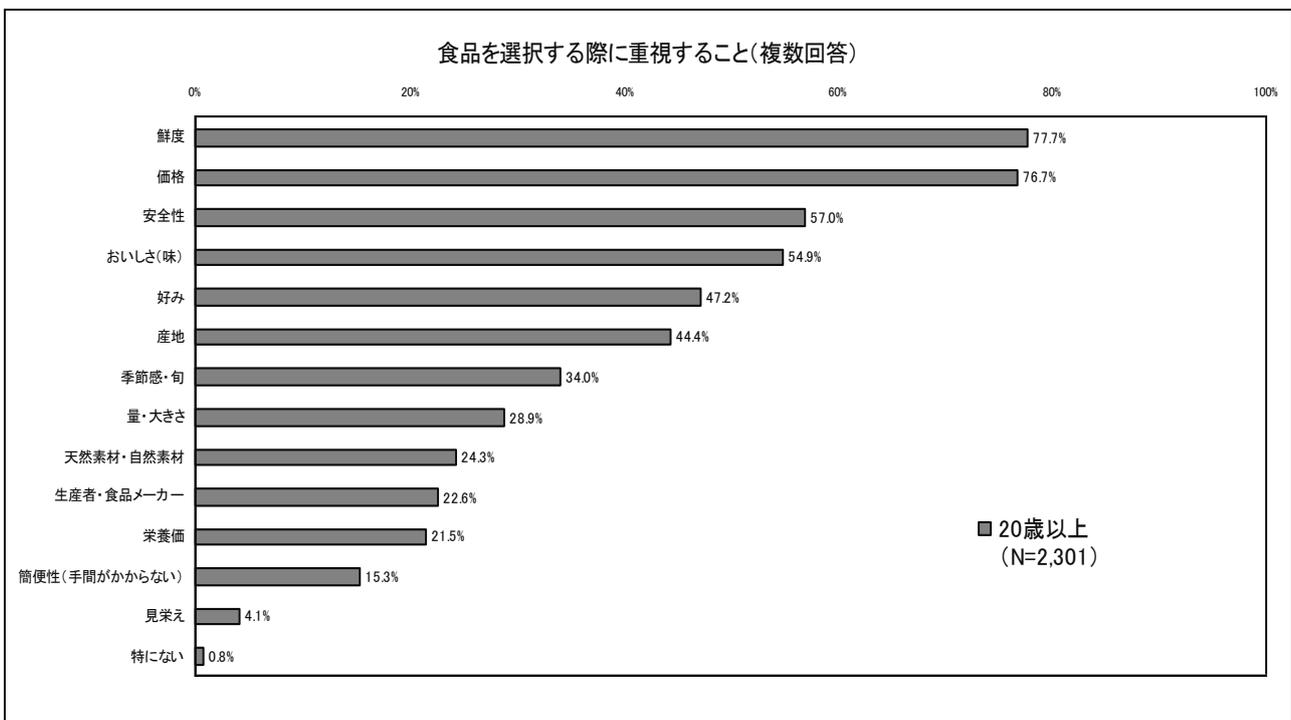


出典：平成 29 年度北九州市食育に関する実態調査、平成 24 年度北九州市食育に関する実態調査

## (3) 食品を選択する際に重視すること

**食品を選択する際に重視することは、鮮度、価格、安全性**

食品を選択する際に重視すること（複数回答）は、「鮮度」が 77.7%と最も多く、続いて「価格」、「安全性」、「おいしさ（味）」の順になっています。

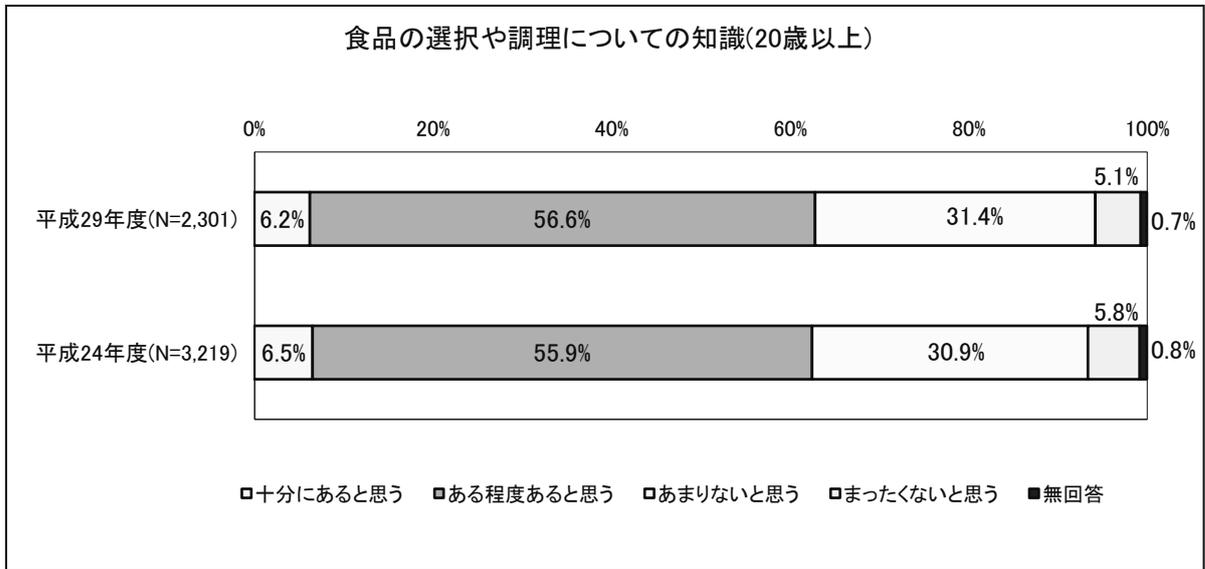


出典：平成 29 年度北九州市食育に関する実態調査

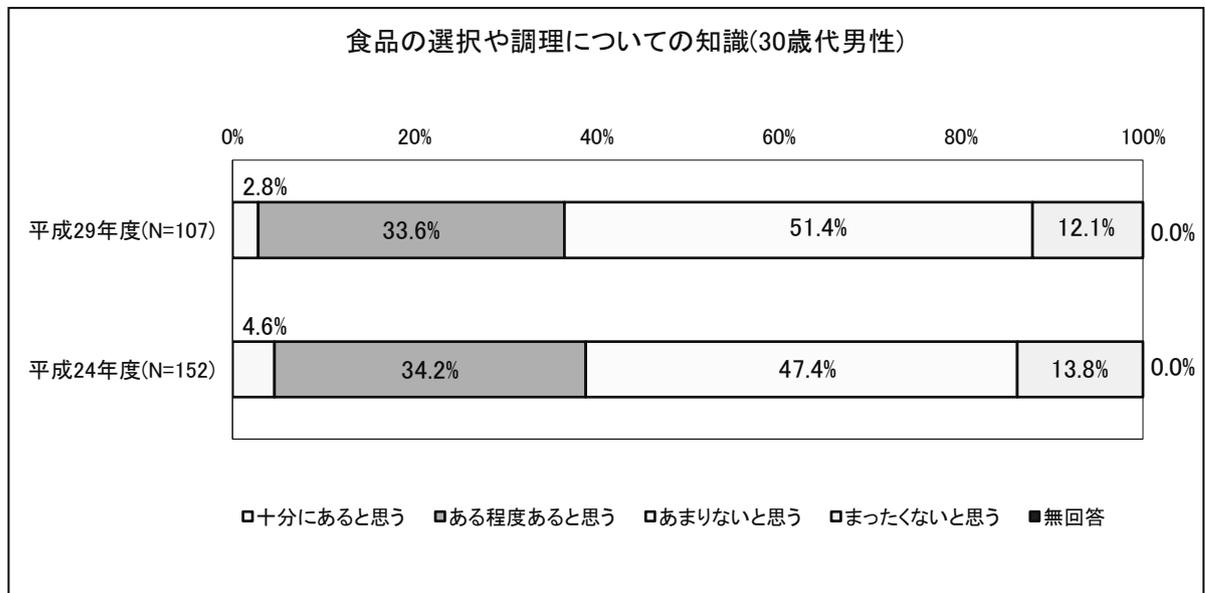
#### (4) 食に関する知識

##### 食品の選び方や調理についての知識がある人は微増

健康に悪影響を与えないようにするために食品の選び方や調理についての知識がある（「十分にあると思う」＋「ある程度あると思う」）は62.8%で、前回調査結果の62.4%より増加していますが、前計画の目標値88%以上には到達していません。特に、30歳代男性は、36.4%と低くなっています。



出典：平成29年度北九州市食育に関する実態調査、平成24年度北九州市食育に関する実態調査

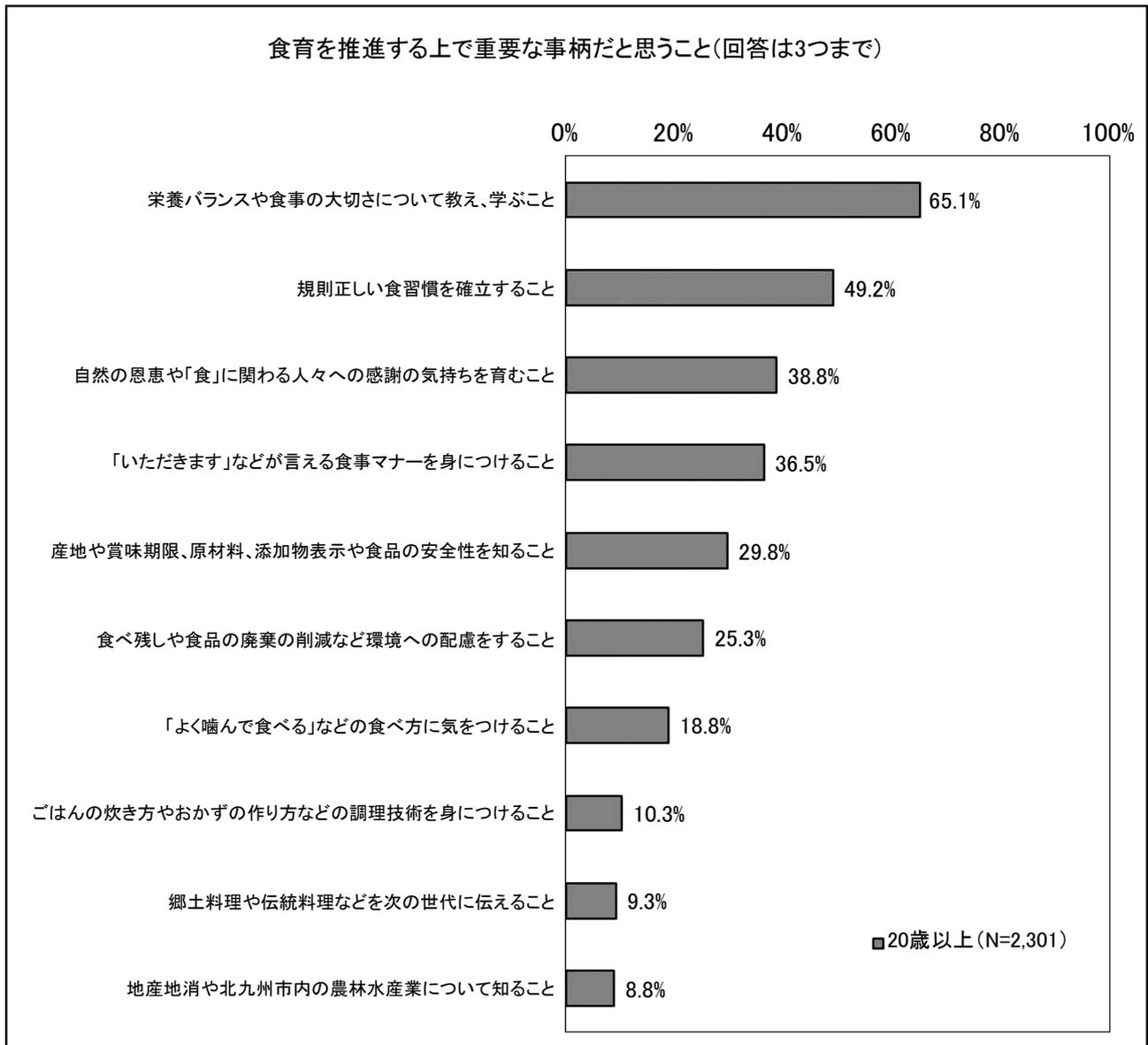


出典：平成29年度北九州市食育に関する実態調査、平成24年度北九州市食育に関する実態調査

## 10 食への感謝

私たちの食生活は自然の恩恵の上に成り立っており、また食に関わる人々の様々な活動に支えられています。環境への配慮とともに、食への感謝の気持ちを育む「食育」が大切です。

「食育を推進する上で重要な事柄だと思うこと」として38.8%が「食への感謝の気持ちを育むこと」と回答しています。



出典：平成29年度北九州市食育に関する実態調査

## 11 第二次北九州市食育推進計画の評価

本市では、これまで第二次食育推進計画に基づき、様々な食育の推進に関する取り組みを進めてきましたが、平成29年度に実施した「食育に関する実態調査」の結果からは、下記のような課題が明らかになりました。第三次計画は、これらの課題を踏まえた上で策定をする必要があります。

### (1) 若い世代からの健全な食生活の実践

食育への関心度はやや増加しましたが、朝食摂取や、栄養バランスのとれた食事などは、目標値に達していませんでした。特に若い世代で食習慣の乱れ等、課題が多く見られました。

この理由としては、規則正しい食習慣が定着していないことや、個人に応じた健全な食生活の実践ができていないことなどが考えられます。

<次期計画の考え方>

- ①市民が、自ら取り組むべきことが何かを明確にする。
- ②健康寿命の延伸に向けて、各ライフステージで取り組むべきことを明確にする。

### (2) 健全な食生活の実践を支援するための食環境の整備

健全な食生活を送るために活用できる、栄養成分表示や食品表示を確認している人は増えていました。一方で、日頃の食生活で悩みや不安を感じている人は増えていました。

この理由としては、食に関する情報に関心はあるものの、健全な食生活の実践に活用されていないことや、正しい知識が不足していることなどが考えられます。

<次期計画の考え方>

- ①市民の実践を支援するために、食を取り巻く環境を整備する。
- ②健全な食生活の実践につながる、正しい知識の普及に取り組む。

### (3) 良質な食の確保と環境に配慮した食生活の実践

市内産・県内産を購入している人の割合や、食品を捨てる量（生ごみ）を減らすよう取り組んでいる人の割合は、目標値に達していませんでした。

この理由としては、食品購入や食品利用についての意識や知識が不足していることなどが考えられます。

<次期計画の考え方>

- ①地産地消など、効果的な情報発信に取り組む。
- ②環境に配慮し、安全・安心な食生活を送るための正しい知識の普及・啓発に取り組む。



## 12 北九州市の食育にかかわる課題

	妊娠(出生)期	乳幼児期	児童・思春期	青年期	壮年期	高齢期
1 食育の推進による健康で生き生きとした食生活の実践				全国より高い20歳代女性のやせ	男性の肥満は増加傾向	全国より高い低栄養の高齢者
			朝食摂取(幼児・小、中学生)は100%に至らず	朝食を食べなくなる時期		
				20歳代男性で低い、朝食習慣		1週間で食べなかった食品、たんぱく質を多く含む食品が上位
			食事を抜く女子高校生 増加傾向	20歳代男性で低い、食育の関心度		
				20歳代男性で低い、生活習慣病予防や改善のための食生活への意識		
				20歳代男性 主食・主菜・副菜を1日に2回以上が毎日の割合は1割以下		
				主食・主菜・副菜をそろえて食べることが1日に2回以上が毎日の割合は4割以下		
				野菜の摂取不足を感じている人の割合は8割以上		
		食事はうす味に気をつけている乳幼児の保護者は約7割		1日あたりの適正な食塩摂取量(8g未満)を知っている人は6割以下		
			食事はうす味に気をつけている小学生の保護者は約6割	食生活の情報源(20~50歳代男女) 1位インターネット、2位テレビ		食生活の情報源はテレビ
		歯ごたえのあるものを食べている小学生は減少	ゆっくりよく噛んで食べる人は全国より少ない			
				家族そろっていつも食事をする人が減少		
2 食にまつわる社会環境の整備				外食や惣菜の利用者は増加		
					外食や惣菜の利用が高い、働く世代	
				食品購入時に栄養成分表示を参考にする人は増加		
				食生活の悩みや不安がある人が増加		
		子どもの食事について学ぶ機会があった乳幼児保護者は約6割		食事のことについて学ぶ機会(教室)があった人は約2割		
				全国より低い、食文化の伝承		
3 生産と食の消費までの食の循環				地場産物を買うようにしている人は、前回より減少		
				生ごみの減量に取り組む人は、前回より減少		
				出された食事は残さず食べる人は、前回より減少		
			食品購入時に表示を見る小学生の保護者は約6割	食品表示を確認している人は約9割		
				健康に悪影響を与えないための知識がある人は約6割		



### **Ⅲ 食育推進の基本理念と政策の柱**

# 1 第三次北九州市食育推進計画における食育推進の基本理念

本計画を推進するにあたり、「基本理念」及び「食育推進スローガン」を掲げます。

## (1) 基本理念

家庭や地域、関係機関等と連携して食育を推進し、市民一人ひとりが、食育に関心を持ち健全な食生活を実践することによって、健康な心身と豊かな人間性を育み、生涯にわたって生き生きと暮らすことができる社会の実現を目指します。

## (2) 食育推進スローガン

**北九州の豊かな未来に向けて 食べて健康！ みんなで実践！**

食は命の源であり、私たち人間が生きていくために欠かすことができないものです。健全な食生活を実践し、楽しく食べることは、人に生きる喜びや楽しみを与え、健康で心豊かな暮らしの実現に大きく寄与するものです。

また、生涯を通じて元気に過ごせるよう、市民一人ひとりが食の大切さを理解し、食習慣、食の選択、食品廃棄、食の安全性、地産地消等、食について関心を持ち、食に関する正しい知識や食を選ぶ力を身につけ、心身ともに健全な食生活を実践することが重要です。生涯にわたって間断ない食育を推進していくためには、個人だけでなく家庭や地域、食育関係者が一体となり、社会全体で取り組む必要があります。

また、北九州市は、新鮮でおいしい海の幸・山の幸に恵まれています。食育を通して地域の特色や文化を学ぶなかで、食が自然の恩恵の上に成り立ち、食べることは動植物の命を受け継ぐものであること、私たちが食事をするに至るまでには多くの人々の苦労や努力に支えられていることなど、食に関する感謝の念や理解を深めることも大切です。

こうした重要な観点を踏まえて、本市の食育を推進していきます。

## 2 基本理念を具体化する3つの政策の柱

これまで「第二次北九州市食育推進計画」に基づき取り組んできた様々な施策の成果と課題、そして各種統計データや食育に関する実態調査等から明らかになった本市の現状をふまえ、本計画では、基本理念を具体化する3つの「政策の柱」を掲げ、さらなる食育の推進に取り組みます。

### (1) 食育の推進による健康で生き生きとした食生活の実践

市民一人ひとりが健全な食生活を実践するために、乳幼児期から高齢期までライフステージに応じた食育を推進するとともに、生活習慣病の発症・重症化の予防、効果的な食情報の発信に取り組むことにより、健康寿命の延伸につながる食育を推進します。

また、家庭だけでなく、地域やコミュニティ等を通じて、豊かな食経験につながる共食の機会の提供等を行う食育を推進します。

### (2) 食にまつわる社会環境の整備

健全な食生活の実践に向けて、食の選択に必要な正しい情報の提供や、健康に配慮した食事を提供する食品関連事業者等と連携した食環境の整備を進めます。また、食生活の正しい知識について学ぶ機会の提供や、食育に関わる人材や組織の育成を推進します。

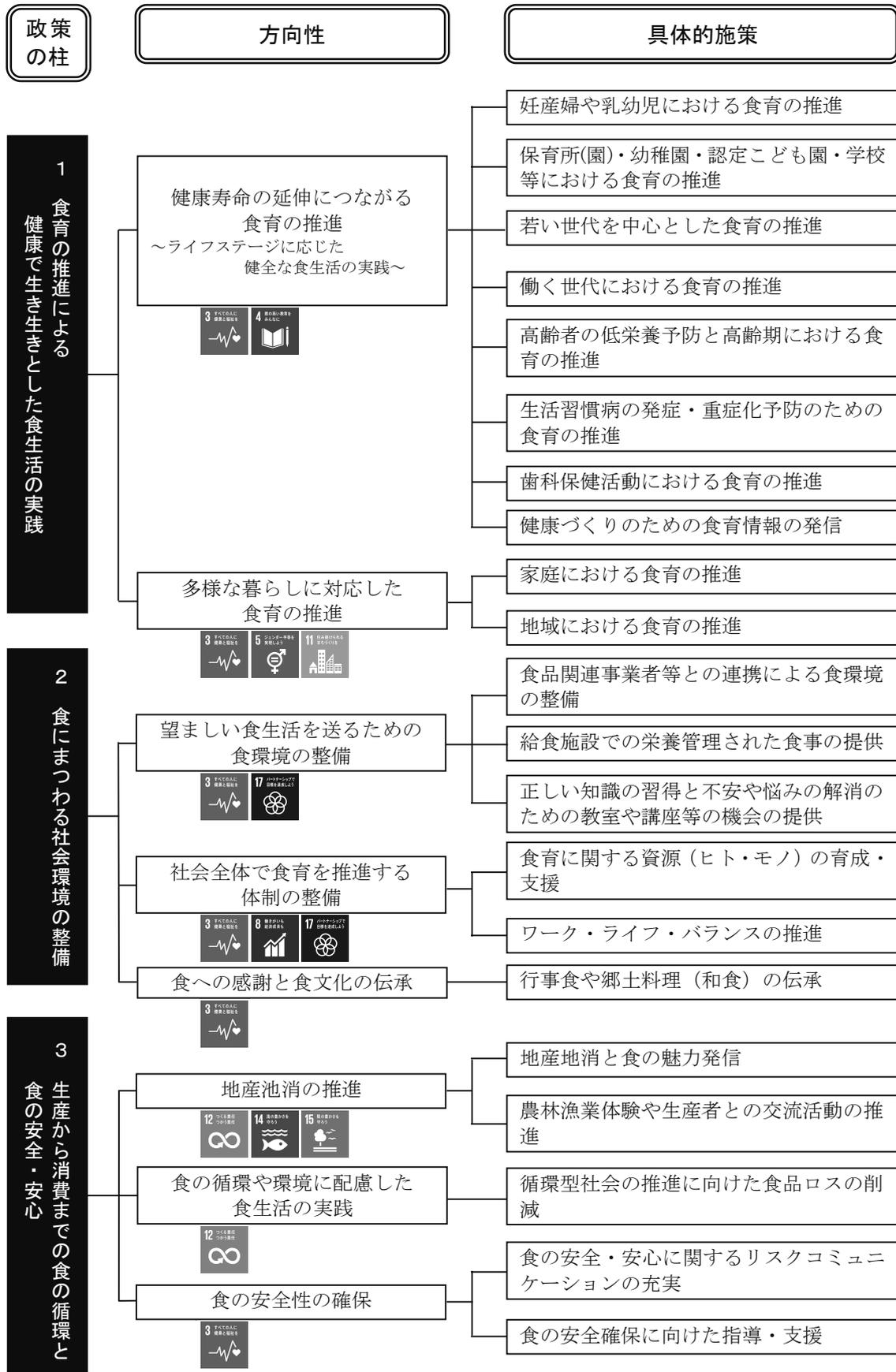
さらに、ワーク・ライフ・バランスの推進を通じて家庭での食育を支援する環境づくりを推進するほか、食育活動を通じて食文化の伝承や普及に取り組みます。

### (3) 生産から消費までの食の循環と食の安全・安心

自然と社会環境との関わりの中で、地産地消を推進し、作業体験等を通じて農林水産業や食への理解を深め、感謝の気持ちの醸成を図ります。

また、食品ロスの削減など、環境に配慮した食育を推進するほか、食の安全・安心を確保するため、消費者、食品関連事業者等とのリスクコミュニケーションを推進するとともに、食品衛生などに関する情報の発信や相談などの食品の安全確保に向けた取り組みを進めます。

### 3 計画の体系図





# SDGs (持続可能な開発目標)とは

<p>1 貧困をなくそう</p> <p>貧困をなくそう</p>	<p>2 飢餓をゼロに</p> <p>飢餓をゼロに</p>	<p>3 すべての人に健康と福祉を</p> <p>健康と福祉を</p>	<p>4 質の高い教育をみんなに</p> <p>質の高い教育を</p>	<p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>ジェンダー平等</p>	<p>6 安全な水とトイレを世界中に</p> <p>水とトイレを</p>
<p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p> <p>エネルギーをクリーンに</p>	<p>8 働きがいも経済成長も</p> <p>働きがい・経済成長</p>	<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p> <p>産業・技術革新</p>	<p>10 人や国の不平等をなくそう</p> <p>不平等をなくす</p>	<p>11 住み続けられるまちづくりを</p> <p>まちづくり</p>	<p>12 つくる責任つかう責任</p> <p>作る・使う責任</p>
<p>13 気候変動に具体的な対策を</p> <p>気候変動対策</p>	<p>14 海の豊かさを守ろう</p> <p>海洋保全</p>	<p>15 陸の豊かさを守ろう</p> <p>環境保全</p>	<p>16 平和と公正をすべての人に</p> <p>平和と公正</p>	<p>17 パートナリシップで目標を達成しよう</p> <p>パートナーシップ</p>	

**SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS** Public Private ACTION for Partnership!!  
 ~SDGsで日本を元気に、世界を元気に  
 その主役はあなたです!~  
 17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD

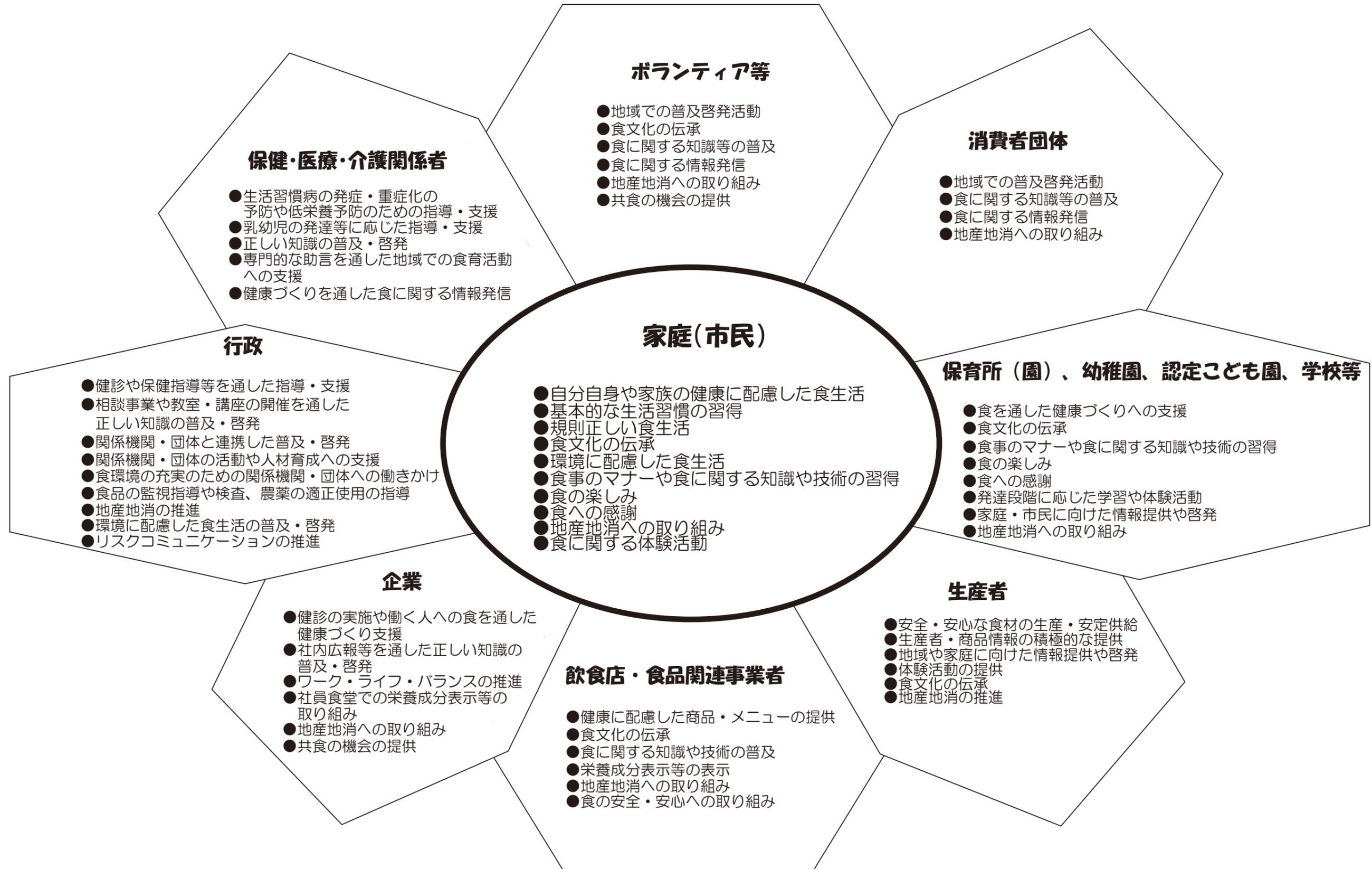
- ◎ 2015年9月の国連のサミットで、すべての加盟国(193カ国)が採択した世界の開発目標です。
- ◎ 発展途上国のみならず、先進国も取り組むこととしています。
- ◎ 2030年までの目標であり、17のゴール、169のターゲットに取り組んでいきます。
- ◎ 日本全体で取り組む達成すべき課題とその目標であり、北九州市も自治体として、市民や企業、団体などと連携し、市一丸となって、SDGsの達成に向けて取り組んでいきます。



## IV 関係者の役割



# 1 食育を推進するための関係者の役割





## **V 食育推進の取り組み**

# 1 食育の推進による健康で生き生きとした食生活の実践

市民一人ひとりが、生涯にわたって健康で心豊かに生き生きと暮らしていくためには、子どもの頃から望ましい生活習慣や食習慣を身につけ、若い頃から健康を意識した自分にあった食事を選択し、年齢を重ねてもできるだけ自立した生活ができるよう低栄養を予防するなど、ライフステージに応じた食生活の実践が必要です。

近年、栄養の偏りや朝食欠食などの食習慣の乱れに起因する肥満や高血圧、糖尿病等の生活習慣病が問題となっています。生活習慣病の発症・重症化を予防し、健康寿命の延伸を実現するためにも健全な食生活の実践が必要です。

そして、おいしく楽しく安全に食べるための口腔機能の維持向上を目指した取組みも大切です。

また、一緒に食べることは、食の楽しさを実感するだけでなく、食や生活に関する情報を得る機会であり、健康で心豊かな暮らしの実現に大きく寄与するものです。世帯構成や社会環境の変化によって、単身世帯やひとり親世帯が増え、家庭生活が多様化する中、地域で食育を進める取組みも必要です。

このようなことから、市民一人ひとりが心身ともに健康で、豊かな食生活を主体的に実践できるよう支援します。

## (1) 健康寿命の延伸につながる食育の推進 ～ライフステージに応じた健全な食生活の実践～

「健康寿命」とは、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間のことをいいます。健康寿命を延伸するためには、生活習慣病の発症・重症化を予防することは重要な課題であり、市民一人ひとりが健全な食生活を実践することが大切です。

このため、ライフステージに応じた切れ目のない食育の推進により、生涯にわたって健康な心身を維持できるよう食生活の実践を支援します。

### ① 妊産婦や乳幼児における食育の推進

自分自身と家族の食生活への関心が高まり、将来の健康づくりに向けた生活習慣の始まりとなる大事な時期に、妊娠前から食への関心を高め、正しい食習慣を意識し、母子の健康のための食習慣の確立と、それぞれの子どもの発達状況に応じた望ましい食習慣の定着を進めていきます。

No.	事業名【担当課】	概要
1	母子健康手帳交付 【子ども家庭局子育て支援課】	母子健康手帳交付の際に、妊娠中の生活について保健指導を行うとともに、妊娠期の食生活や授乳・離乳、幼児栄養教室等についての情報提供を行います。